

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29147 宮古島宇宙学校：宮古島から宇宙を探ろう



開催日：平成29年8月5日(土)

実施機関：国立天文台

(実施場所) (沖縄県立宮古青少年の家)

実施代表者：有松 亘

(所属・職名) (天文情報センター・特別客員研究員)

受講生：小学生1名・高校生3名

関連URL：

【実施内容】

[プログラムの留意・工夫点]

講義・観測に関する基礎知識を受講者にわかりやすく理解してもらうため、講義では基礎的な天文学や天体望遠鏡の基礎知識に関して十分な時間を使って説明した。また、講義資料は専門的な用語や単位を極力使わないように留意して作成した。

受講者が宮古島で実施している観測についてわかりやすく理解してもらい、さらに身近なものとして興味を持ってもらうために、当日は研究で用いている観測システム2台を効果的に利用した。研修室での研究の紹介の際には研修室内に組み立てた観測システム一台を用いて実際の観測システムの内部構造や観測の仕組みについて詳細に解説するいっぽう、同施設屋上に設置したもう一台の観測システムを用いて実際の観測のようすを体験してもらい、研究への理解とリアルな研究体験を両立できるように工夫した。

[当日のスケジュール]

8月5日

15:40-15:50 受付(集合場所: 沖縄県立宮古青少年の家)

15:50-16:30 開校式(所長および代表者挨拶、科研費の説明、講師自己紹介)

16:30-18:20 ゲスト研究者による最新の天文学・惑星科学に関する講義(途中計30分の休憩あり)

18:30-19:30 屋上にて休憩・講師と参加者のフリートーク、観測システムの見学

19:30-21:00 屋上にて天体観測

21:00-21:30 未来博士号の授与

21:30 終了・解散

当日は概ね実施計画書通りのスケジュールで進行したが、実施日当日は日中薄雲が広がっており気温が低かったため、屋内にて実施予定であったフリートークを観測システムの設置してある屋上で実施した。これにより、観測システムやその設置場所のようすを見学しながら研究者とのフリートークを行ったので、より臨場感のあるプログラムの実施ができた。

[実施の様子]

本プログラム実施時の様子を以下に示す。

いずれの画像も琉球放送のニュース映像(平成 29 年 8 月 14 日)より引用したものである。



[事務局との協力体制]

本プログラムの申請段階から事務とは連絡を密接にとりながら、プログラムを実行した。

[広報活動]

プロジェクト twitter アカウントによる広報活動を実施した。また、現地の高校(沖縄県立宮古高等学校)を訪問し、チラシの配布などを依頼した。

[安全配慮]

当日の気象状況を逐一チェックし、落雷・突風・突発的な豪雨の可能性を十分考慮しながら屋外でのプログラムを実行した。また、実施時間が夜間に及ぶことから、終了時刻が遅延することがないように十分に余裕をもったスケジュール編成を組んだ。実際に、予定時刻までにプログラムを終了することができた。

[今後の発展性・課題]

本プログラムは離島である沖縄県宮古島市にて開催したが、こうした地域では企画そのものを立てることが難しく、興味があっても参加する機会が多くは無い。その意味で、本プログラムの実施の意義は非常に大きかったと考える。今後も同様のプログラムの実施を継続することが望まれる。

【実施分担者】

渡部 潤一 天文情報センター・教授

【実施協力者】 ___ 1 ___ 名

【事務担当者】後藤 美千瑠 研究推進課・研究支援係・係長